

Canon



使用説明書



このたびはキヤノン デミをお選びくださいまして、まことにありがとうございました。世界のカメラとしてひろく親しまれてまいりましたキヤノンが、皆様のために新しい感覚を盛りこんで完成した **35mm** デミサイズカメラの傑作です。

携帯に便利な形状と軽さで、しかも高い品質をもつものです。皆様のメモがわりに十二分にご利用ください。



キヤノンデミの特長

技術とデザインで定評あるキヤノンが、精密カメラ製造の技術を生かしたデミサイズ(24mm×18mm)カメラです。手のひらに入る大きさ、シャープなレンズ、操作しやすいスタイル、この3つはデミの最もすぐれた長所といえるものです。

手に入るカメラ

誰の手にも合う丸味をもった独特のデザインです。薄型にするため随所にアイデアを盛込んであるため使い良く持歩きに非常に便利です。

短いレンズの採用

焦点距離に較べ短いレンズ設計を得意とするキヤノンの技術的特長を最も有効に生かしたレンズです。この種のカメラとして3群5枚というゼイタクさにもかかわらず、普通のタイプのものより5mmも短くし、更に普段使わない目盛を鏡胴内に平面的に配置してレンズの突出量をより少なくすることに成功しています。

シャープなレンズ

普通の35mm判と同質の引伸し写真がつくれるよう、とくに厳しい収差補正が要求されたレンズです。そのため3群5枚という豪華な設計が行われました。

ビハインドシャッターと絞り

シャープなレンズをより短くするためにシャッターと絞りがレンズの後方にあ

るビハインドタイプに設計されました。普通のビハインド形式と違って絞るほどレンズの性能が良くなります。またレンズの有効径を 4 mm も大きくとって画面上の光量の分布が均一になるようにしました。同時に空気レンズを利用して光学系の軽量化に努めております。

ヘリコイド フォーカス

前玉回転式と異りレンズ系全体が繰出されるヘリコイド フォーカス タイプですから、レンズの最良の性能がつねに発揮されます。

ぜいたくなプリズムファインダー

4枚のレンズと3コのプリズムからなる実像式で見やすいという点では随一です。パララックス量が最小の位置にあってきわめて正確、使い良さを代表するものの一つとなっています。

その他の使い易さ

簡単に露出調整ができる軽くて大きい調節リングやゾーンフォーカス式のピント合わせ、また、小型カメラ唯一の操作性の良い巻上げレバーなどは、このカメラを使い易くする上に非常に大きな役割をもつものです。その他フィルムをつめやすくした蝶番式裏蓋やフィルムカウンターなど高級機同様の機能がいろいろ備わっています。

キヤノンデミの主要性能

- 型 式： 35 mm フィルム使用の 24 mm×18 mm 判 (デミサイズ)
レ ン ズ： キヤノンレンズ SH 28mm F 2.8トリプレット発展型 3群 5枚構成
コーティング： マゼンタとアンバーのスペクトラハードコーティッド
画 角： 55°
絞 り 系 列： 2.8 4 5.6 8 11 16 22
焦 点 調 節： ゾーンフォーカス式
露 出 計： セレン光電池による追針式連動露出計
露出計作動範囲： ASA 感度100のフィルムに対してLV6~17に相当する明るさの範囲

フィルム感度目盛は

ASA	10	(16)	25	(32)	(50, 64)	100	(200)	400
DIN	11	(13)	15	(16)	(18, 19)	21	(24)	27

シャッター：000番 F 2.8 $1/30$ 秒～F 22 $1/250$ 秒のプログラム シャッターで

B およびフラッシュシャッター（ \downarrow ： $1/30$ 秒）がある

B と \downarrow に合わせたとき手動絞り可能

フラッシュ同調：X 接点 JIS B 型ソケット

M, F 級フラッシュバルブやスピードライトに完全同調

ファインダー：0.41 倍 ケプラータイプ実像式

巻上げレバー：一作動 145° 小刻み巻上げ可能

フィルム枚数計：順算自動復元式

大きさ・重量：115 mm \times 68 mm \times 37 mm/380 g

アクセサリー：27 mm フィルター各種，フラッシュ ユニット カプラー，速写ケース，フラッシュ ユニット J-3，セルフタイマー 6 など，

目 次

	頁
デミの扱い方.....	8
レバーの巻上げ操作.....	9
フィルムをつめかた.....	10
メーター連動撮影.....	13
1. フィルム感度を合わせる.....	13
2. 露出のきめ方.....	15
3. ピント調節.....	17
4. 巻上げ.....	19
5. 構図をきめる.....	19
6. シャッターボタンを押す.....	19

	頁
手動絞り撮影.....	21
7. フラッシュ撮影.....	21
8. B (バルブ)撮影.....	24
フィルムの取出し.....	25
フィルターの使い方.....	27
ご使用にあたって.....	31
デミの撮影手順.....	33
プログラムシャッターとは.....	35
デミの保存と手入れ.....	36

デミの扱い方

はじめての方の中には、カメラの使用法を難しく考え、非常に心配される向きも沢山いらっしゃると思いますが、一度キヤノンを操作して頂けば、すべての心配が一掃され楽しく撮影して頂けるものです。したがってご使用のはじめに当っては必ず使用書をお読み頂き、各部の操作を完全にマスターすることが大切です。その手はじめに巻上げレバーの操作を行い、カメラに慣れてからフィルムをつめ、実際の撮影に入るという手順をおふみください。



レバーの巻上げ

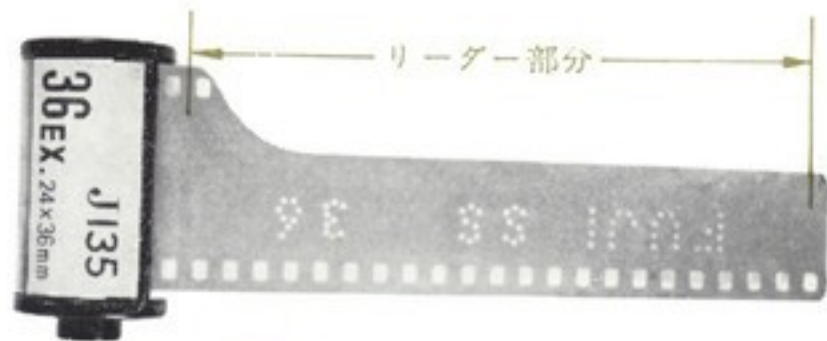
1. レバーを巻上げます。
 2. シャッターボタンを押すと、シャッターが作用し、再びレバーの巻上げができます。
- フィルム枚数計は、1目盛が2コマ分で2回目の巻上げごとに進みます。

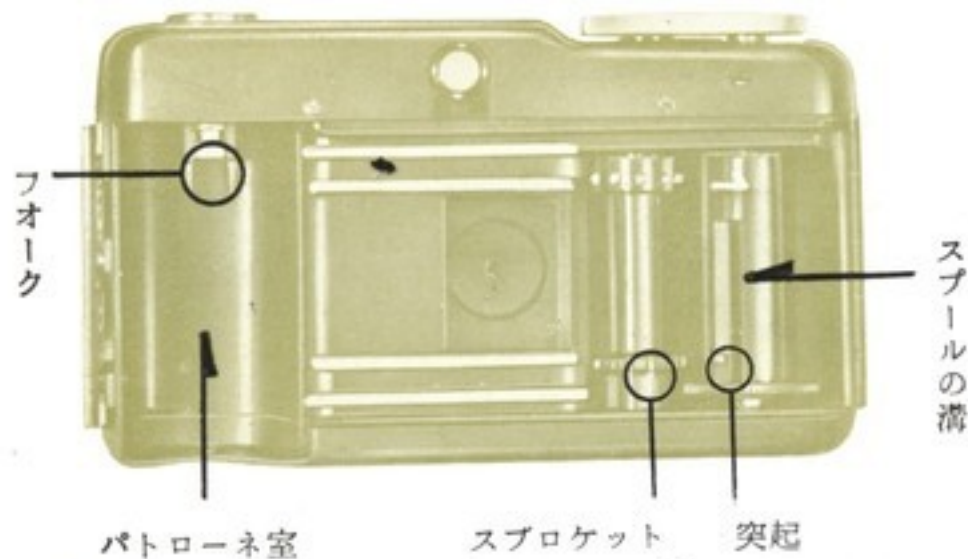


フィルムのつめ方

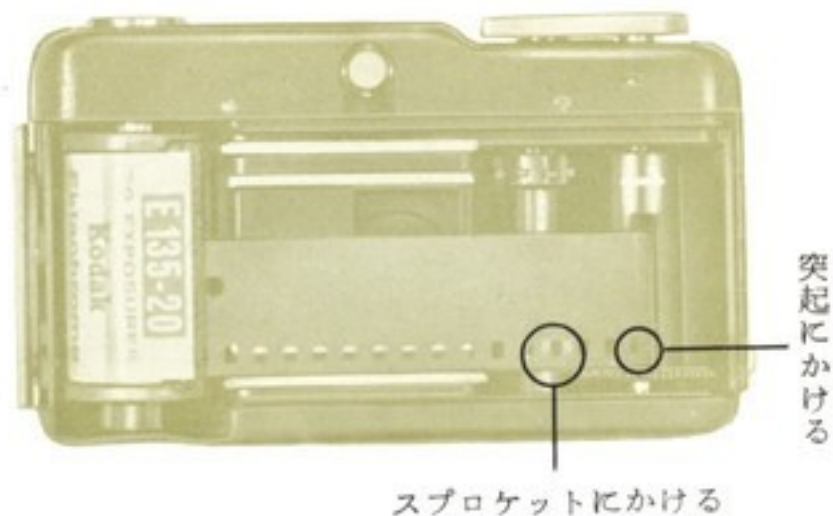
フィルムは市販のパトローネ入り
35mm フィルムを使用します。

1. 裏蓋開閉止め金を下側に押しさげると裏蓋が開きます。
 - 撮影枚数計はS (スタート位置) に自動的に戻ります。
2. パトローネ室内にフィルムを収めます。
 - 巻戻しノブは上方に引出せないようになっていますから、ボディ下部の切欠きを利用して下からパトローネをさし込みます。その際フックと溝を合わせて入れます。





- レバーを巻上げるかスピールのつばを矢印方向へ回すかしてスピールの溝を出し、そこにフィルムのリーダー部先端を十分さし込み。
- 同時に溝ぎわにある突起にフィルムの孔をかけます。



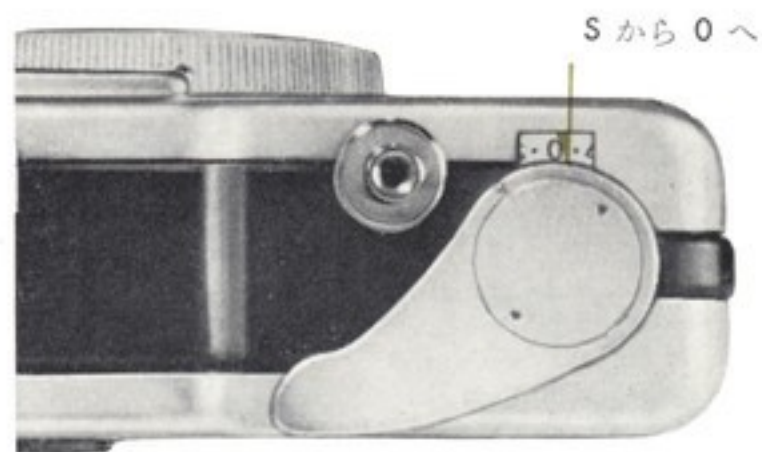
- 再びレバーを巻上げるかスピールのつばを回すかしてフィルムをスプール軸に巻きつけ、フィルムのたるみをとったのち、フィルムの孔がスプロケットに正しくかかっているかどうかをよく確かめ。

6. 裏蓋を閉じます。裏蓋は押すだけで完全にロックされます。
7. レバーを巻上げて、シャッターを切る操作を4回行います。
8. 5回目の巻上げで1枚目の撮影準備ができ、枚数計は0をさしています。

*フィルム装填後1回目の巻上げのときレバーが空送りすることがありますから、念のためもう一度巻上げてください。

フィルム装填の確かめ

*レバーを巻上げたとき、巻戻しクランクが同時に回転すれば正常です。その際パ




トローネ内でフィルムがゆるんでいると巻戻しクランクが回らないことがありますから、予めクランクをひき起して時計方向へ2~3回まわしてたるみをとっておくこと、フィルムが正しく装填されていないときはもう一度つめなおしてください

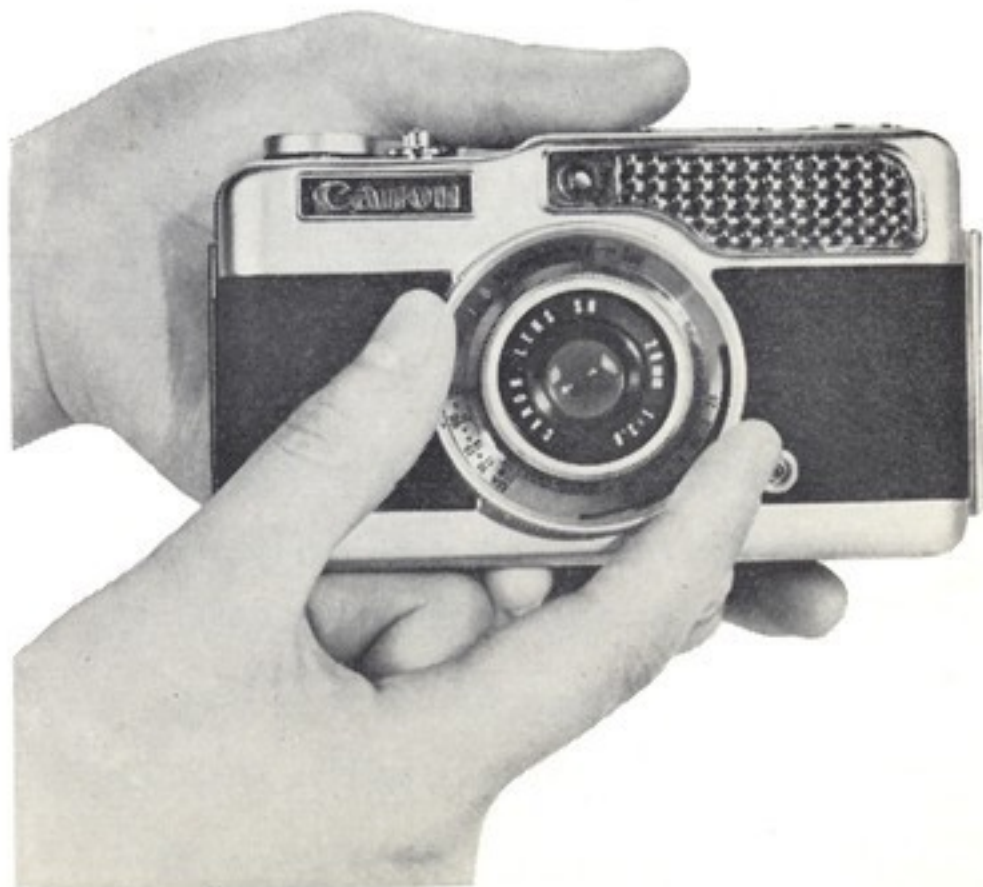
メーター連動撮影

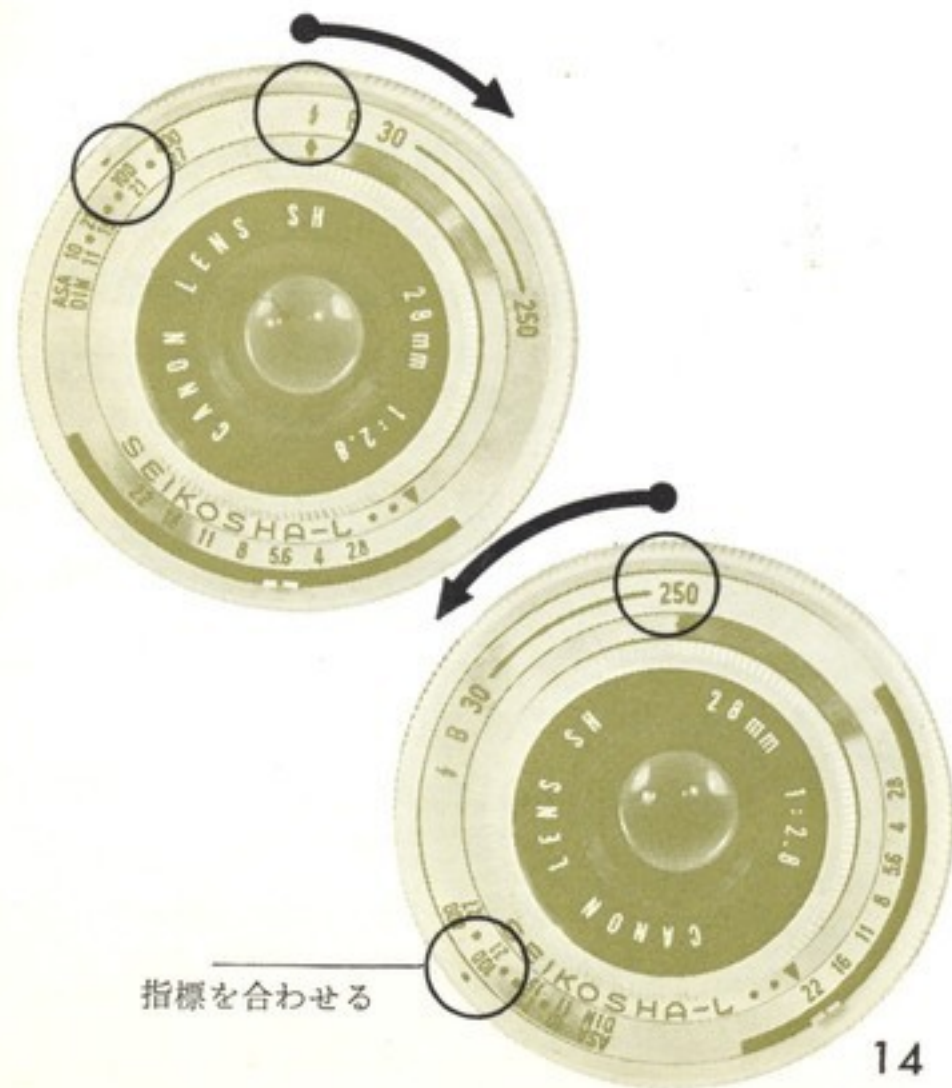
フィルムをつめ終ったら直ちに次のことをしておきます。

1. フィルム感度を合わせる

使用するフィルムの感度目盛に露出調節リングの黒点指標を合わせます。そのためには

- 露出調節リングを右に回し  マークを指標◆に合わせ、更に力を加えて回す(感度の高い方へ合わせる)





露出調節リングを左へ回し 250 を指標◆に合わせ 更に力を加えて回す (感度の低い方)

*250または ⚡ マークから先は外周のリングのみ回り、黒点が各感度目盛にクリックストップで合わすことができます。

*フィルムの感度はフィルムの外装箱または説明書に明示されています。SSはASA 100, SSS は ASA 200, S は ASA 50 です。

*フィルム感度の合わせ方は、黑白・カラーとも共通です。

*フィルム感度を合わせた後、露出調節リングを回し◆指標を 30—250 の間に戻しておきます。



*感度目盛には ASA および DIN があり
中間の黒点は下記括弧内の通りです。

ASA 10(16)25(32)(50, 64)100(200)400

DIN 11(13)15(16)(18, 19) 21(24) 27

2. 露出のきめ方

ここから実際の撮影に移ります。

- カメラを被写体(写されるもの)に向けるとメーターの指針が動きます。
- 露出調節リングを回して追針(太針)を指針(細針)の上に合致させます。
- この操作で露出の調節が完了します。

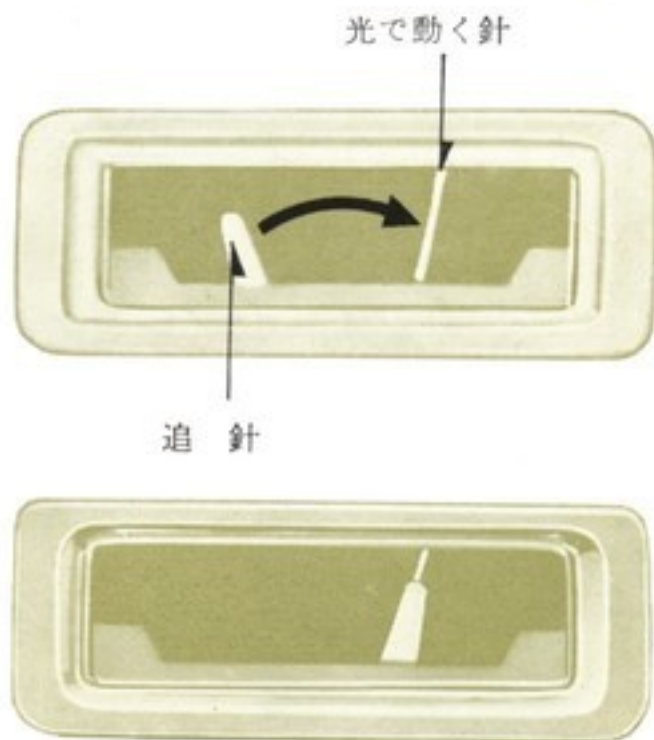
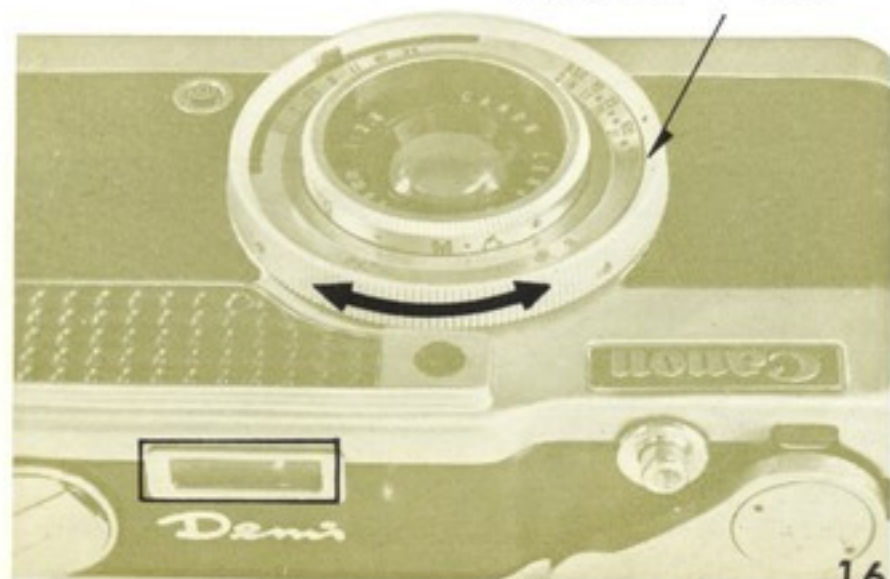
* 手動絞りレバーは動かさなくてすみます。動かしても元に戻ります。

* 露出調節リングを回しても追針が指針に合致しないときには連動露出計による撮影はできません。撮影条件が明るすぎるか、暗すぎる場合です。

* 指針が右側一杯に入り 1/250 秒でも合
われないときは露出過度の状態ですから
ND フィルターをかけます。

* 指針が左側制限に入ったときは 1/30 秒
でも露出不足になりますから、フラッシ
ュ撮影かB(バルブ)撮影に切りかえます。

露出調節リングを回す

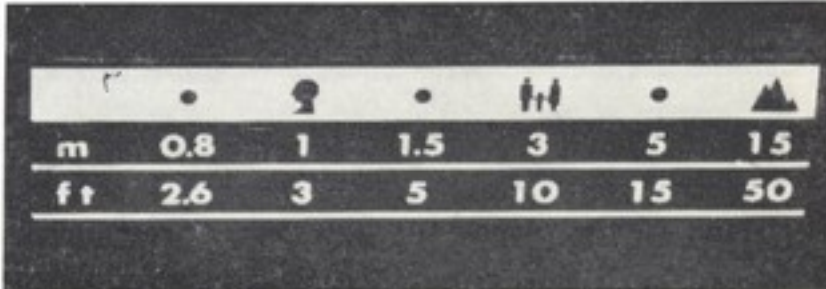


3. ピントの調節

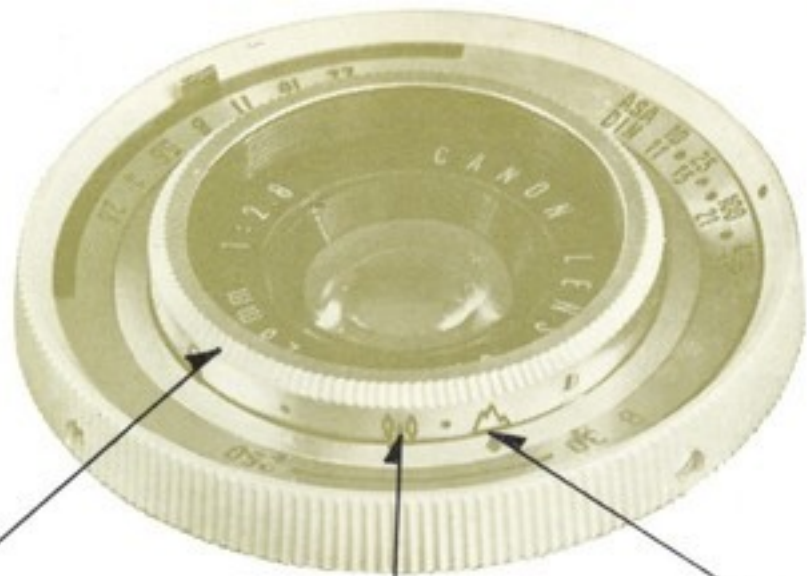
露出がきまったらピント合わせをします。撮影するには必ず被写体（写されるもの）の距離によってレンズの調節をしなければなりません。これがいわゆるピント調節です。

- フォーカシング リング上にある 3 つの絵から被写体に適したものを撰択します。
- フォーカシング リングを回し◆指標に絵を合わせます。
- この操作で被写体にピントが合います。
- * デミのレンズはピントの合う範囲が深いため上記の操作で十分に鮮明な写真が得られます。

- * フォーカシングリングにはこの絵の他に 3 つの黒点(・)がありますが、それぞれのマークが示す撮影距離はカメラ裏蓋の距離表をごらんください。
- * 一人の場合でも距離が遠く離れているときは中距離マークを利用することになります。
- * 被写体は近距離ほど大きく写り、離れるほど小さくなります。



	●	◆	●	人	●	▲
m	0.8	1	1.5	3	5	15
ft	2.6	3	5	10	15	50



4. レバーを巻上げ

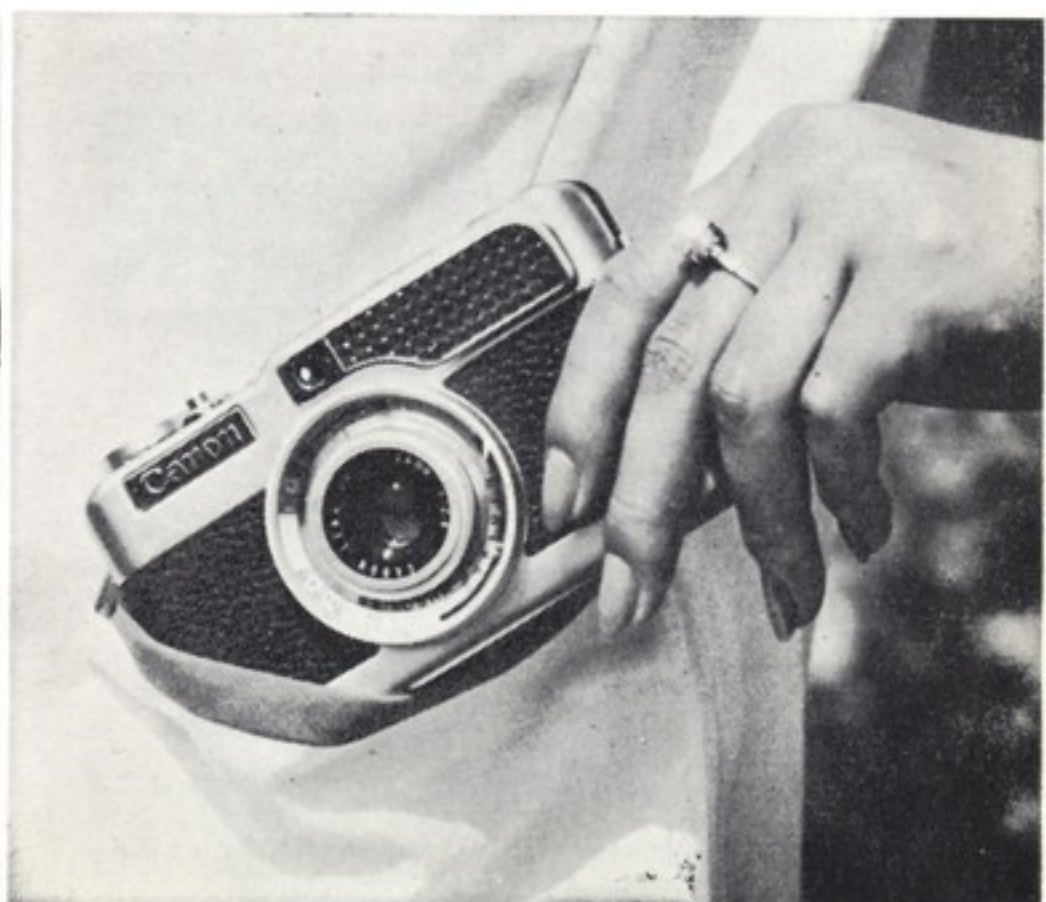
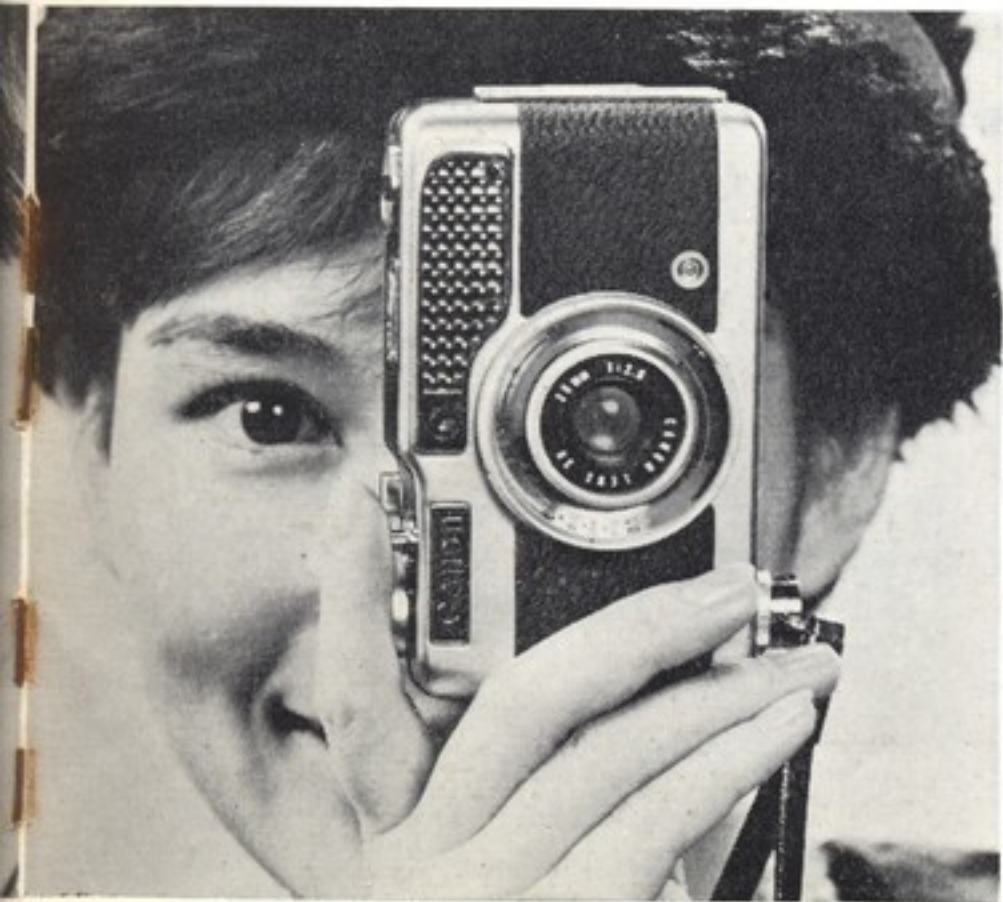
5. ファインダーで構図をきめる

ファインダーは撮影する範囲をきめるものです。デミのファインダーはレンズの真上にあるので一杯の構図でも頭を切ったりする心配がありません。

6. シャッターボタンを押します

構図がきまったら、シャッターボタンを静かに押し下げます。撮影が終了すると再びレバーの巻上げができます







手動絞り撮影

1/30~1/250 秒間の連動撮影から離れて、B と \downarrow マークの撮影には絞りを手動でセットして行います。手動絞りレバーがこの場合だけ操作できます。 \downarrow マークの場合のシャッタースピードは 1/30 秒です。したがってどうしても手動絞りを使用したいときは \downarrow マークに合わせて1/30秒による撮影を行うこととなります。

7. 手動絞り撮影／フラッシュ撮影

フラッシュ撮影は暗い被写体でメーター連動による撮影ができない場合有利にご利用頂けます。

フラッシュ撮影の準備と撮影

- デミにはフラッシュユニット J-3 をご使用ください。
- フラッシュユニット カプラーを取付金具にすべりこませて取付けます。
- カプラーのアクセサリシュー(取付座) にフラッシュユニットを取付け、コードをフラッシュソケットに接続します。

- * デミにフラッシュユニット J-2 を使用する
るときには、ベースレスアダプター AG
または PH を装着し、小型ベースレスパ
ルプをご使用ください。

なお、スワンベースタイプの大型パ
ルプを用いるとゴーストイメージを発生
することがあります。ご注意ください。

- * フラッシュバルブにはガイドナンバーが
きまっています。外装箱に記されてお
り絞りをきめるため必要ですからご注意
ください。

- * ガイドナンバーはフィルム感度，フィ
ルムの種類によって数値が異なり，またメ
ートルもしくはフィート用が明示されてい
ます



- 露出調節リングを回し、フラッシュマーク \downarrow を \blacklozenge 指標に合わせます。
(シャッタースピードは 1/30 秒になります.)
- 絞りをきめます。
絞り値の算出は使用するフラッシュバルブのガイドナンバーを距離で割ると求められます。

$$\text{絞り値} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}}$$

したがって、まずピント合わせをし撮影距離を求めます。正確な撮影距離はカメラ裏蓋の距離表を参考にし



手動絞りレバー

て頂きます。

次に上記の計算によって算出された絞り値を手動絞りレバーによってセットします。



8. B (バルブ) 撮影 / 長時間露出の撮影

B 撮影はシャッターボタンを押している間中はシャッターが開いて露出が行われ、手を離すとシャッターが

閉じます。したがって露出時間の調整は自由に行えます。花火や夜景、星などの撮影に利用されます。

- 露出調節リングを動かし B を◆指標に合わせる。
- 手動絞りレバーを動かしてのぞみの絞りをセットする。
- シャッターボタンを押す。

* 長時間露出ですから、必ず三脚とレリーズをご使用ください。

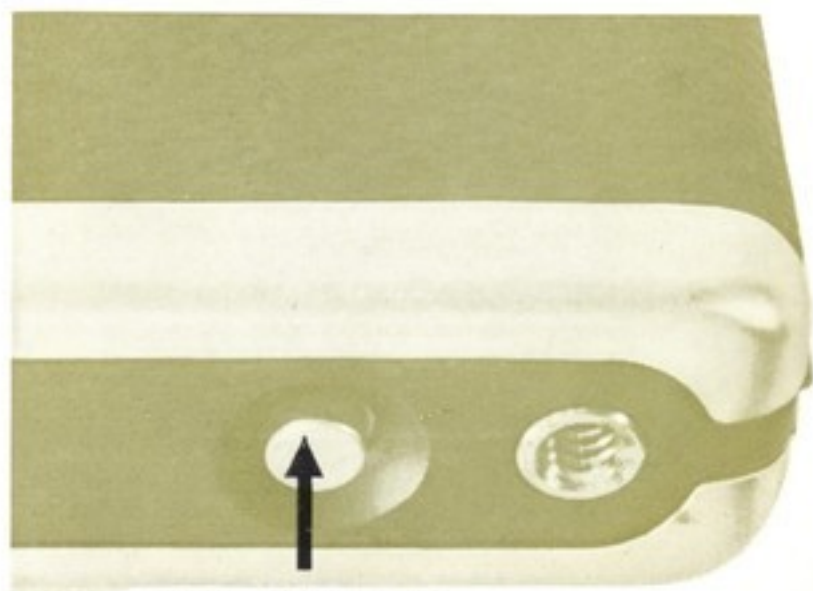
* きわめて長時間露出を行う場合にはロック付レリーズを用いると便利です。

フィルムの巻戻しと取出し

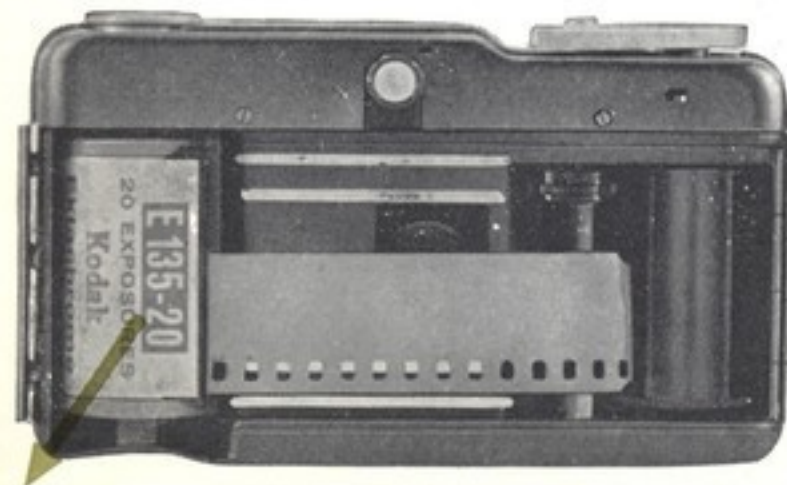
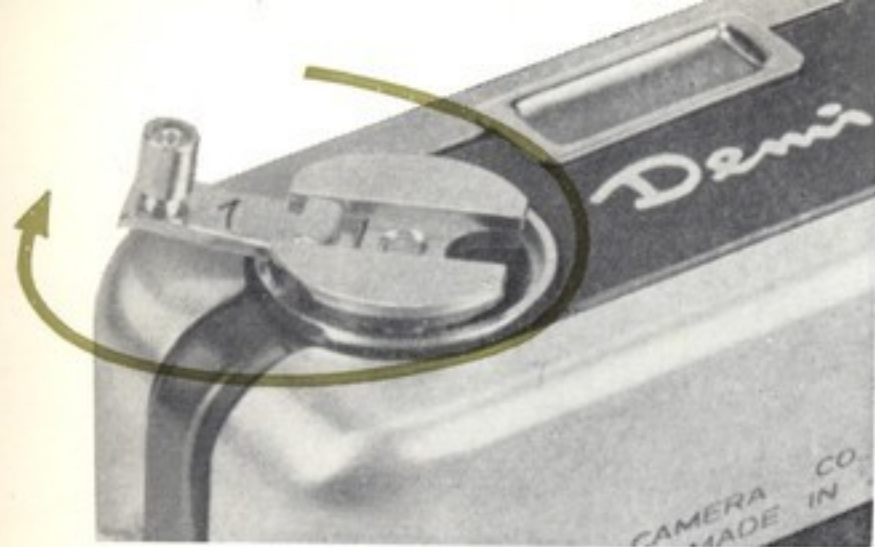
フィルムはパトローネ（容器）から裸のまま巻取られています。したがって撮影後そのまま裏蓋を開いて取出すことはできません。一旦必ず元のパトローネに巻戻さねばなりません。

- フィルムが終りになるとレバーがきつくなり巻上げができなくなりますから、フィルムを巻戻します。

* 無理に巻上げしますとフィルムが切れて元のパトローネに戻せなくなり、暗室かダークバッグが必要となりますからご注意ください。



巻戻しボタンを押す



裏蓋を開けてフィルムを取出す

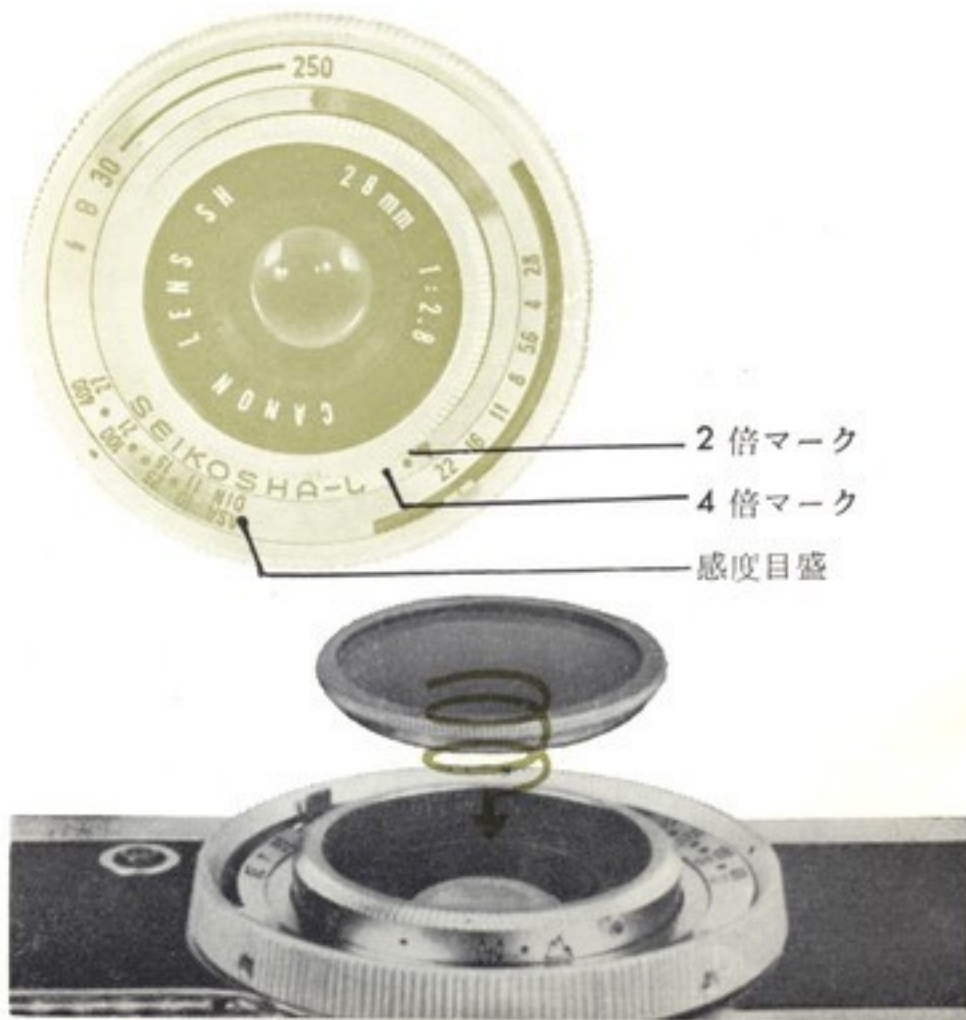
1. 巻戻しクランクを引起す (ノブ全体が少し浮上ります)
2. カメラ底部の巻戻しボタンを押込んだまま巻戻しクランクを矢印方向に回します。抵抗が軽くなったならば巻戻し操作を止めます。
3. クランクを折畳みます。(巻戻しクランクをたたみ、ノブ全体を軽く押すとクランクノブは収納されます。その際クランクをたたまずにノブを押しこむとクランクは収まりません)。
4. 裏蓋を開きます。
5. 巻戻された撮影済みフィルムを取出します。

フィルターの使いかた

フィルターはレンズ前枠にねじこんで
用います。

フィルターは黑白フィルム，カラーフ
ィルムに対してそれぞれ特有の効果を
現わします。また露出過度になる条件
下では ND フィルターなどで露出の調
整をすることもあります。

- フィルターは濃度や種類によって露
出倍数があります。そのため撮影の
さいその倍数だけ露出を多くかけね
ばなりません。



調節のしかた 1

(露出倍数マークを使用する方法)

- 露出調節リングを回して普通に露出の調整をする。
- そのとき指標に合っている絞り数値を読みとる。
- 使用しているフィルター倍数が2倍であれば、露出調節リングを回して2倍マークに読みとった数値を合わせる。フィルター倍数が4倍であれば4倍マークに合わせる。
- 例 Y3の場合、絞り指標が5.6を指していればリングを回して5.6を2倍マークに合わせる。

調節のしかた 2

(フィルム感度を変える方法)

- 使用しているフィルム感度を露出倍数で割り、
- その数値にフィルム感度を合わせ直す。
- 例 フィルムがASA100でフィルター倍数が2倍であれば、 $100 \div 2 = 50$ つまりASA 50にフィルム感度を合わせ直しておく。
- その後は普通に露出の調整を行う。
以上の調整をしないと正確な露出が得られないこととなります。



27mmねじ込み式フィルター

露出
倍数

種 類

1	UV (SL 39・3C)	黒白カラー共通
1.5	Y1 (SY 44・2C)	} 黒 白 用
2	Y3 (SY 50・2C)	
3	O1 (SO 56・2C)	
6	R1 (SR 60・2C)	
3	G1 (MG55C)	
1	スカイライト	} 黒白カラー共用
4	ND 4	
8	ND 8	
2	カラーコンバージョン A	} カラー用
3	カラーコンバージョン B	

フィルター効果

- ・紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。
- ・黒白フィルムに利用して写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。
- ・青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。
- ・コントラストを強調し場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
- ・赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。
- ・青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。
- ・ND 4 は 1/4, ND 8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色光再現性には全く影響がありません。
- ・タングステンタイプを太陽光下で撮影する場合に色温度を転換するカラーフィルム専用のフィルターです。
- ・デイライトタイプフィルムを電灯光下で撮影するための色温度転換フィルター。



ご使用上の注意

キヤノンデミを十二分にご利用頂くために次の点にご注意ください。

- キヤノンデミのシャッターはレンズの後にあるビハインド式で裏蓋を開くと手前にシャッターと絞り羽根が見えます。これらは微妙な露出調整を行うものですから、手を触れないようご注意ください。





- シャッターボタンを押したままフィルムを巻上げないこと。巻上げと同時にシャッターが切れてしまうことがあります。

セルフタイマーを使う場合

キヤノンデミのシャッターボタンが非常に軽くリリースできるように設計されておりますので、次の点にご注意ください。

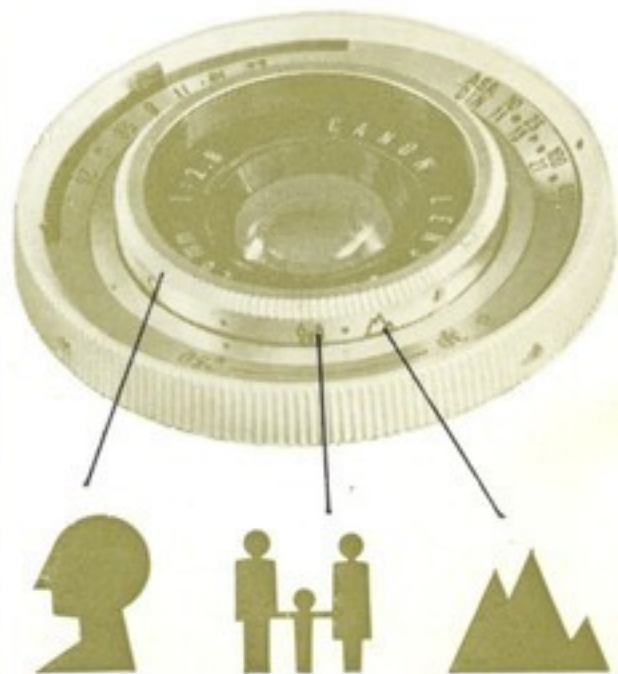
- セルフタイマーを取付けるにはカメラの巻上げレバーを巻上げる前に取付けてください。
- カメラの巻上げはセルフタイマーを巻上げてから行ってください。

キヤノンデミの撮影手順

- 1 レンズキャップをはずす 2 針を合わせて
露出の調節をする



- 3 ピントを合わせる



4 ファインダーを
覗いて構図



5 シャッターを巻上げる



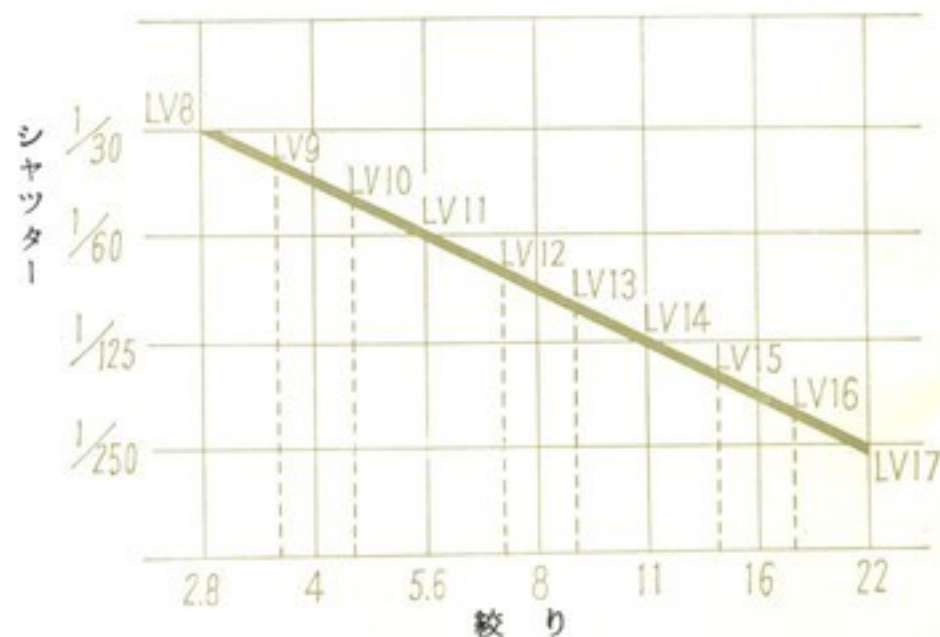
6 シャッターボタンを押す



プログラムシャッターとは

1つのシャッター速度に対して1つの絞り値が組合わされたシャッターです。たとえば 1/250 秒に対しては F 22 の絞り, 1/125 秒に対しては F 11 の絞り, 1/30 秒に対しては F 2.8 という具合に組合わせがきめられているものです。キヤノンデミはこのプログラムシャッターにメーターを連動させてシャッターと絞りの組合わせを連続無段階に調節するもので右図の如くなります。

キヤノンデミプログラムシャッター変化図



キヤノンデミの保守と手入れ

カメラの保存に高温と湿気は禁物です。タンスなど密閉した所とか写真暗室や薬品の多い部屋に長くおくことは感心しません。

万全をはかるならば、缶か乾燥器などにシリカゲルやアドソールなどの乾燥剤とともに入れておしまいください。

デミの手入れ.

野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったときは、気付かないうちに水滴や塩分を受け勝ちなので、放置するとシミや錆を生じ、またレンズの焼けや腐蝕の原因になります。このような場合には、柔い刷毛で埃を払い、更に乾いた柔い布で丁寧に拭きます。油類は使用しない方が安全です。

汗ばんだ指で触れるのも禁物です。

レンズの手入れ.

レンズにはなるべく手を触れないのが安全で、柔い刷毛か羽で埃を払う程度にとどめたいのですが、やむを得ないときは、洗いさらした柔い清潔な綿布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜても可）を付け、レンズ面の中心より外側に、渦巻きを描くようにして軽く静かに拭きます。拭くそばからアルコールが乾いていく程度が良好です。強く拭いたり、埃の付いているままで拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です。

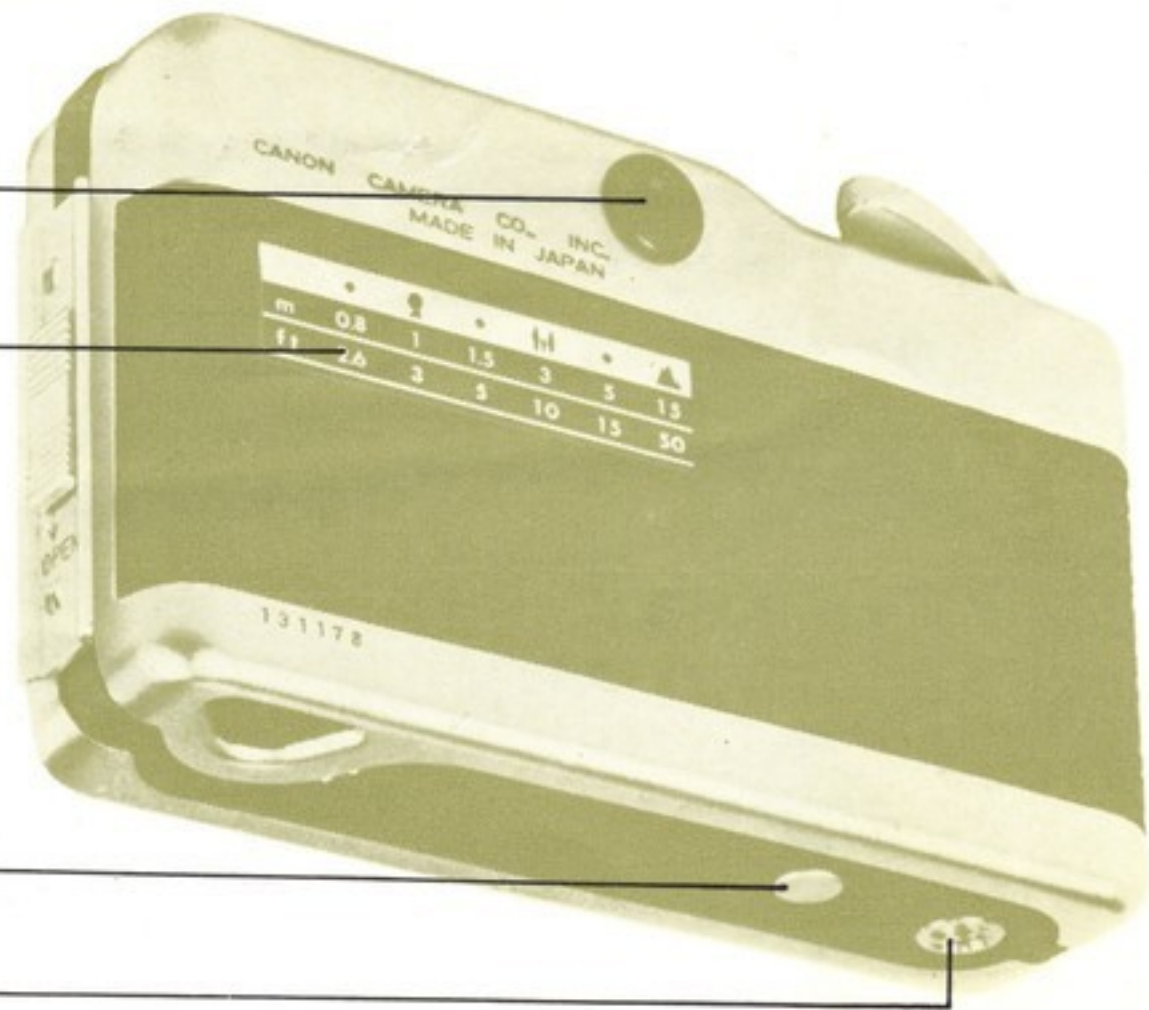
* カメラを海水に落したときは時を移さず清水で洗い、きれいに拭いたのちに修理にお出しください、グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります。

ファインダー
覗き窓

距離表

巻戻しボタン

三脚穴



 アクセサリー

● フラッシュ ユニット J-3 1,050 円

ベースレス
バルブ専用
AG・PHソ
ケット内蔵
切換式



● フラッシュ ユニット カプラー 300 円



● キヤノンレリーズ 全金属製 250 円



● セルフタイマー 6 540 円



● 速写ケース (セミハード) 1,200 円

肩からの携帯用
ネックストラップ付



キヤノンカメラ株式会社

東京都中央区銀座5-3 (吹原ビル) 電話 572大代表4251

サービスステーション

東京・中央区銀座6-2 (松坂屋前) 電話571-3767・4461

大阪・北区梅田2 (第一生命ビル2階) 電話361-1261・1701

名古屋・中村区広小路西通2 (大商ビル6階) 電話55-2811

福岡・天神町12-1 (福岡ビル9階) 電話76-1061・3561

札幌・北三条西4-1 (第一生命ビル4階) 電話3-5788

広島・広島市鞆町26 電話2-4615・4616

仙台・東二番丁6-8 (富士ビル8階) 電話25-0215-7

Canon

デジ

